

分娩前だけじゃない！授乳期の増飼いについて

梅雨も明けて、本格的な夏に入りました。熱中症にならないようこまめな水分補給が必要です。

さて、今月号のテーマは「授乳期の増飼い」です。種付きが悪くなった、発情が来ない、子牛の白痢が増えた等は授乳期の増飼いが足りないことで起こっているかもしれません。授乳期の給与メニューについて再確認してみましょう。

エネルギーは不足しないようにしましょう

繁殖はエネルギー利用の優先順位が最下位です。よってエネルギーが不足すると、真っ先に犠牲になるのは「繁殖」です。そうすると卵巣静止等の卵胞発育障害に陥るほか、子牛の白痢の原因にもなります。

表1 エネルギーが体内で使われる優先順位

1	生命維持
2	成長
3	泌乳
4	体脂肪蓄積
5	繁殖

授乳期は増飼いをしましょう

増飼い期間は右図のとおりです。

授乳期は泌乳のため、維持期よりも、分娩前の増飼い期よりも養分要求量が増加します（表2）。子付きで管理している方は、栄養が足りているか改めて給与メニューを見直してみましょう。



表2 授乳期の養分要求量

	乾物摂取量	タンパク	エネルギー (TDN)
維持期との比較	約 1.5 倍	約 2.2 倍	約 1.7 倍
分娩前の増飼い期との比較	約 1.3 倍	約 1.5 倍	約 1.3 倍

(日本飼養標準・肉用牛2022)

表3 1日当たりの給与例

	24か月齢 (体重450kg)	48か月齢 (体重500kg)
維持期	1 番草サイレージ : 7.5kg 稲わら : 2.0kg 配合 : 1.0kg	1 番草サイレージ : 7.5kg 稲わら : 2.0kg
授乳期	1 番草サイレージ : 10.0kg 配合 : 4.0kg ふすま : 0.5kg	1 番草サイレージ : 10.0kg 配合 : 3.0kg ふすま : 0.5kg

2産までは自分の体も成長するので、より多くの養分が必要です！

注) サイレージについては、一関農業改良普及センターでR3~5年に飼料分析した検体の平均値に基づく
1 番草サイレージ : 水分38.5%、CP8.3%、TDN57.3%

■飼料はゆっくり切り替えましょう

給与メニューを急激に変えるのは御法度です。配合飼料は、1kgを1週間かけてゆっくり増減しましょう。

■ビタミンAを補いましょう

ビタミンAが不足すると発情不良（発情がこない、発情不明瞭）等の繁殖障害が起こります。ビタミンAの元になるβ-カロテンは生草にある程度含まれますが、乾草や低水分サイレージはその量が半分～1/10程度まで減少します。

乾草主体の場合やビタミンを消耗しやすい夏場は、分娩から受胎するまでの間、**ビタミン剤の給与**をおすすめします（ビタミンA D₃ E 製剤等）。青草の給与でもOKです。

表4 粗飼料中のβ-カロテン含量（乾物中mg/kg）

オーチャードグラス 1番草（出穂期）生草	216
サイレージ	66～140
乾草	13～42
稲WCS 糊熟期	51
黄熟期	32
稲わら	2～4

（日本飼養標準・肉用牛2022、日本標準飼料成分表2009）

表5 1日当たりの必要量（体重500kgの場合）

	β-カロテン換算 (mg)	ビタミンA (×1,000IU)
維持期	53	21.2
授乳期	148	59.2

転換

※β-カロテン1mgが400IUのビタミンAに転換する
とした時

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルの
ダウンロード
はこちら→



○ 分娩直後の子牛の処置について

1. 正常分娩が一番

正常な分娩であれば、人間の介助は必要ありません。自然に娩出される場合、娩出途中で自発呼吸は確認できますし、娩出後は臍帯も自然に断裂します。

分娩介助を行った場合、まずは**自発呼吸**を促しましょう。



2. 子牛のマッサージ・乾燥

呼吸が確認出来たら、母牛が子牛を舐める行動（リッキング）を誘導します。リッキングは**マッサージ効果**があり、血液循環や排便のほか**初乳の吸い付きを良くする**のに重要な行動です。

冬場の分娩では特に、タオル等でしっかりと拭いて牛体を乾燥させましょう。



カーフウォーマー

3. ヘソ（臍帯）の消毒

臍帯炎予防のため、**消毒液**で臍帯を消毒しましょう。切除する場合は5cm程度が目安。

臍帯が乾くまではこまめに敷料を交換し、子牛の乾燥状態を維持しましょう。



4. 初乳の摂取・給与

牛は、初乳を摂取することで免疫機能を獲得できます。免疫機能が無いことは病原体に対して無防備な状態となりますので、**分娩後6時間以内の摂取**を心がけ、必要に応じて初乳製剤を使用しましょう。

5. その他（生理的貧血予防）

黒毛和種の子牛は生後1ヶ月の増体率が高いため、生理的な貧血に陥り、発育停滞が生じることがあります。

生後3～5日齢の間に**鉄+ビタミンAD₃E**製剤を投与することで貧血の予防になります。